

科目名称 (Course Title)				担当教員 (Instructor)	
専門研究 I				齋藤 達弘	
開講学期 (Semester)	単位数 (Credits)	履修年次 (Requirement)	授業形態 (Class Type)	受講定員の有無 (Maximum Enrollment)	授業公開 (Workshop Class)
前学期	2 単位	3 年次	演習	有 (連絡済)	
授業の概要 (Course Description)					
<p>テーマ : gretl (グレーテル) で計量経済分析</p> <p>計量経済分析とはデータを統計的な手法を使って調べる実証分析方法の一つある。実証分析とは因果関係を明らかにする証拠 (エビデンス) を導き出す手続きである。計量経済分析は、経済学だけでなく、経営学や社会学など人文社会科学一般に幅広く用いられている実証分析手法となっている。また、地域協働型教育との関係では、計量経済分析はエビデンスに基づく政策のための必要不可欠の道具である。</p> <p>gretlとは統計分析のフリー・ソフトの一つである。この演習ではgretlで計算しながら理論 (分析手法 : 単回帰分析と重回帰分析) を学ぶアプローチを採用する。まずは慣れること、計算できることが重要と考える。みなさんは各自のPC (保有を推奨) にgretlをインストールして自宅学習してほしい。ゼミは実習ではなく、教科書の輪読が中心となる。なお、統計学は既習が望ましい。</p>					
授業の到達目標 (Course Objectives)					
<p>大学における経済学学習のコアは、ミクロ経済学とマクロ経済学、計量経済学 (統計学) である。この中で、計量経済学は授業科目として開講されていない。この演習は計量経済学の授業科目の代用として位置づけている。この演習の到達目標は、計量経済分析を実施し、その分析結果を理解するための必要最低限の概念やルールを習得することである。</p>					
授業計画 (Course Schedule)					
第 1 回	ガイダンスと専門研究 I の全体像				
第 2 回	輪読 : 教科書 第 1 章 (pp. 1-11) + 第 2 章 (pp. 14-30)				
第 3 回	gretl : 教科書 第 2 章の実証分析問題 (2-A, 2-B, 2-D)				
第 4 回	輪読 : 教科書 第 4 章 (pp. 74-85)				
第 5 回	輪読 : 教科書 第 4 章 (pp. 86-96)				
第 6 回	gretl : 教科書 第 4 章の実証分析問題 (4-A)				
第 7 回	途中まとめ				
第 8 回	輪読 : 教科書 第 5 章 (pp. 98-116)				
第 9 回	輪読 : 教科書 第 5 章 (pp. 116-128) + gretl 実証分析問題 (5-C)				
第 10 回	輪読 : 教科書 第 6 章 (pp. 129-143)				
第 11 回	輪読 : 教科書 第 6 章 (pp. 144-159) + gretl 実証分析問題 (6-C)				
第 12 回	途中まとめ				
第 13 回	輪読 : 教科書 第 7 章 (pp. 160-177)				
第 14 回	輪読 : 教科書 第 7 章 (pp. 178-185)				
第 15 回	全体まとめ				
授業時間外学習 (Supplementary Activities)					
各自のPC (保有を推奨) にgretlをインストールして自宅学習すること。					

成績評価の方法と基準(Grading)	
評価方法 (割合)	評価基準
演習への参加 (100%)	秀：論点を特筆すべき水準で理解している。 優：論点を適切な水準で理解している。 良：論点をおおよその水準で理解している。 可：論点を最低限の水準で理解している。 不可：論点の理解が最低限の水準に達していない。
テキスト (Textbook)	田中隆一『計量経済学の第一歩』有斐閣、2015年。
参考書・資料等 (Supplementary Reading)	加藤久和『gret1で計量経済分析』日本評論社、2012年。 山本勲『実証分析のための計量経済学』中央経済社、2015年。
備考 (Other Information)	受講生が統計学をどの程度に学んでいるのかに応じて授業計画を変更することがある。
教員との連絡方法 (Contact With Instructor)	メール連絡。